

研究・技術計画学会
第28回年次学術大会および総会日程のご案内

第28回年次学術大会および会員総会を下記要領で開催いたします。
研究成果の発表や会合への参加をご検討くださいますようお願いいたします。

記

第28回年次学術大会

1. 開催日：平成25年11月2日(土)～11月3日(日)
2. 会場：政策研究大学院大学（東京都港区六本木7-22-1）
3. 参加登録の申込方法等：9月下旬に大会プログラムが確定した後、参加申込方法等の詳細なご案内を差し上げます。

第28回総会

1. 開催日：平成25年11月2日(土)
2. 会場：政策研究大学院大学（東京都港区六本木7-22-1）
3. 議題等のご案内は9月下旬頃に差し上げます。

なお、上記事項に関するお問い合わせは、学会事務局宛にお願いいたします。

〒135-8473 東京都江東区深川2-6-11
富岡橋ビル4F（公財）未来工学研究所気付
研究・技術計画学会 事務局
TEL/FAX: 03-5620-0577
E-mail: office@jssprm.jp

詳しいプログラムは、出来上がり次第お送りいたします。

研究・技術計画学会

第28回年次学術大会一般講演募集要領

来たる11月2～3日、政策研究大学院大学において開催される第28回年次学術大会の一般講演募集要領は、以下のとおりです。

1. 講演発表の内容

(1) 課題

1) 恒常 이슈

本年度より議論の活性化を目的とし、恒常 이슈のカテゴリーを変更いたしました。新カテゴリーおよび昨年度までのカテゴリーとの対応は下記のとおりです。

2013年度からの新カテゴリー	旧カテゴリーとの対応	説明
① 技術経営(戦略・R&D マネジメント)	技術経営 分野別の R&D マネジメント	昨年度までの「技術経営」、「分野別の R&D マネジメント」を、以下の3つのカテゴリーに分離
② 技術経営(教育・育成)	技術経営	
③ 技術経営(事例・ビジネスモデル・事業化)		
④ 知的財産	知的財産権 標準化	知的財産に関するテーマ
⑤ 産官学連携・地域	産官学連携 地域科学技術研究	産官学連携及び地域に関するテーマ
⑥ 研究・イノベーション政策	公的資金配分期間のマネジメント 科学技術と大学 科学技術政策と政策論	科学技術政策に関するテーマ
⑦ イノベーション・起業	ベンチャー経営と政策 ナショナル・イノベーション・システム 研究開発システムとモデル 戦略形成	イノベーションおよびアントレプレナーシップ・起業に関するテーマ
⑧ 国際(競争と協調)	国際競争力・産業競争力	競争だけでなく協調を含む国際に関するテーマ
⑨ 人材	人材問題	人材に関するテーマ
⑩ 分析と評価	評価 マトリクス 技術進歩の経済分析	分析および評価に関するテーマ
⑪ 科学と社会	科学社会学 科学技術と社会・倫理問題	科学社会学、倫理問題などに関するテーマ
⑫ その他(具体的に記述してください)	その他	

上記の恒常 이슈もしくは下記のホット 이슈の中から、発表内容カテゴリーの第一、第二希望をお選びください。ただし、選択された以外のカテゴリーでご発表いただく可能性もあります。

2) ホット 이슈

ホット 이슈として、今次大会は特に次の7つのテーマに焦点を絞ります。毎年継続して実施している研究報告・事例報告などは恒常 이슈とし、ホット 이슈では、以下のテーマについて、産官学それぞれの立場からの研究発表を期待いたします。

A) 国際競争の下での将来の大学像と大学改革

2004年に国立大学が法人化されて10年近い年月が経つ。しかし、大学を改革すべきとの議論はそれで終焉するどころか、むしろ活発化している。少子化・国際化によって大学間競争が熾烈になり、国立大学運営費交付金の削減、私立大学経常費補助金の低迷、競争的資金間接経費の減額というなか、これからの大学のあり方を展望し、リーダーシップの発揮や組織運営の改革が模索されている。こうした中で①国際比較の中での日本の大学の現状評価、②これからの社会に求められる大学と人材育成、③大学の組織運営、戦略立案や研究支援(リサーチアドミニストレータ(URA)等のあり方を含む)の問題点とその解決策についての議論を深める。特に実効性ある大学改革に向けた積極的な提言を歓迎したい。

B) 将来の女性リーダーへの期待

女性リーダーの活用は、イノベーションを育むための組織の多様化、および女性活躍を推進する上での日本の最重要課題である。共同参画社会実現の成否は、この課題への取り組みにかかっているといても過言ではない。理工系を中心とした分野におけるこの問題についての議論を深める。

C) 多様なイノベーションへの対応

「社会のニーズ」「辺境」という言葉で象徴される新しいイノベーションのうねりを議論する。クラウド・ファンディング、BOP(ボトム・オブ・ピラミッド)、リバース・イノベーションなど、国間、階層を横断して生まれる多様なイノベーションの事例やフレームを共有して議論したい。

D) 研究成果を効果的にイノベーションに結びつける方法論

研究活動とその社会的寄与との間には大きなギャップがあり、成果が実際の社会に役立つまで長い時間がかかること(悪夢の時代、死の谷などと呼ばれる)が認識されているが、研究開発側から積極的にこのギャップを埋める活動を行うことが求められている。また、世界的な科学技術イノベーション政策の動向をみても、先進諸国を中心に、科学技術を通じた課題解決と経済成長を実現するための施策が検討されるようになった。日本においても第4期科学技術基本計画において、「課題達成型」の研究開発の推進が謳われている。研究開発成果をイノベーションに効果的に結びつけるためには、常に“社会が何を求めているか”の把握と研究成果の活用・受容の在り方の予測を踏まえ、これらをフィードバックさせた研究開発施策の議論や“構成型”^{*}の研究開発活動が必要である。本ホットイシューでは、研究開発成果をイノベーションに効果的に結びつけるための研究開発戦略や実施、政策立案などの方法論を議論することを目的とする。

^{*}構成型研究: 研究開発成果の社会での活用を視野に入れて研究開発の目標や具体的価値を定め、その実現のためのシナリオや研究手順を設定し、そのために必要な要素(技術)の選択と統合を行い、全体的な検証・評価を行う研究

E) 技術の変化点を起点とするイノベーションの動向

ビッグデータ、M2M、3Dプリンター、音声インタフェースなど、最近の技術の大きな変化点を起点とするイノベーションが世の中で期待されている。これらはテクノロジープッシュ型であるが、それをマーケットの中でどのように意味づけるかがイノベーションの成功の鍵となる。意味づけが不十分であれば、一過性のブームで終わりがねない。このような考え方は「デザイン・ドリブン・イノベーション」として注目されている。本セッションでは、技術の変化点を起点とするイノベーションに関する事例、課題と可能性、モデル、方法論および科学技術政策的な取り組みについて議論する。

F) 持続可能な経済成長と課題解決のためのイノベーション・システムの変革

持続可能な経済成長と社会的課題の解決のためには、イノベーションの実現が不可欠であり、我が国のみならず世界各国でイノベーション・システムの変革が求められている。安倍内閣の成長戦略に代表されるように、イノベーションの創出を目的として、各種規制や制度を改革するために様々な施策が展開されようとしている。また、科学技術イノベーション政策においても、次期科学技術基本計画策定に向けて検討が開始されることとなる。また、これらの重要政策の立案、実行及び評価に際しては、我が国が置かれている現状を踏まえ、これまでなされた取り組みとその結果を客観的に把握・評価しつつ、従来の制度的慣性や思考的枠組みを越えた施策を企画・立案することも必要となる。本ホットイシューでは、成長戦略とイノベーション、科学技術イノベーション政策の科学など、我が国のイノベーション・システムの変革のための政策に関わる研究について、産官学のセクターを超えた幅広い発表と議論を期待する。

G) 学際研究・教育のマネジメント

現代の科学は多くの社会課題に直面しており、その解決には複数の学術分野の統合である「学際研究」(Interdisciplinary Research)が必要不可欠と考えられる。学際研究の必要性は1970年代から認識されてきたが、現在に至っても、その取組はいまだ量的・質的に十分であるとは言えず、未解決かつ現在進行形の課題である。そこで、社会のための学術の実現という高まるニーズに向け、学際的な研究・教育の現状・評価手法、それらを成功させるための経営管理手法などについて幅広く議論を行いたい。なお、本テーマは同様のテーマで Call for Paper 形式により投稿論文募集が行われる論文誌特集号と連携しており、投稿希望者は本テーマで発表することにより担当編集者からアドバイスを得ることが出来る。

(2) 発表内容は、最近の研究で未発表のものを原則とします。一部既発表のものを含む場合は、未発表部分が主体となるようご配慮ください。

(3) 発表時間は講演時間12分、討論3分(ホットイシューは講演時間15分、討論はセッション最後にまとめて行う)を予定しています。

(4) ホットイシューは発表の集まり具合を見て、それぞれの内容に関してさらに特定のテーマに絞る場合があります。また、一部の発表は恒常イシューに移させていただく可能性がありますので、ご了承ください。

(5) 当日使用できる機材はパソコンからのプロジェクター投影のみです。次の点にご注意ください。

- ・Windows 用に限り、使用ソフトは、「Windows 版 Microsoft Power Point」か「Windows 版 Adobe Acrobat で保存されたPDFファイル」に限り、ソフトウェアのバージョンについては別途通知します。
- ・ファイルは、当日USBメモリにてご持参の上、発表前の休憩時間に各自パソコンへのセットをお願いいたします。(パソコン・プロジェクターは会場に用意されています。)
- ・ファイルの文字化けや破損などについては、研究・技術計画学会では責任を負いません。
- ・アニメーションはバージョンによりうまく動作しない可能性がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・OHPは使用できませんのでご注意ください。

(6) 後日、要旨集に掲載する原稿をご提出いただきますが、この原稿の著作権は本学会に帰属することをご了承ください。ただし著者ご自身が学術活動にご使用になることにつきましては、何ら問題ありません。

講演原稿提出の締切日は9月20日(金)です。 8月上旬に原稿執筆要領・テンプレートを学会HPに掲載します。講演番号は8月下旬にお知らせいたします。

要旨集はCD-ROMにて配布いたします。原稿はA4サイズ、ページ数は原則として4ページ以内ですが、必要があれば6ページまでは受け付けます。

※お申し込み時の講演題目・講演者名(共同講演者を含む)の、原稿提出段階での変更はできませんのでご注意ください。

2. 発表資格

登壇者は、2013年8月5日時点で本学会の会員資格を有する方(法人会員およびグループ会員の準登録者を含む)に限り、発表件数に制限はありません。

新たに入会して発表を希望される方は、2013年8月5日までに、平成26年度(2013.10.1~2014.9.30)分の会費を納入し、入会手続きを完了させていただく必要があります。

入会案内・申込方法につきましては、学会 HP(<http://www.jssprm.jp/>)をご参照ください。

3. 申込方法

研究・技術計画学会ウェブサイト(<http://www.jssprm.jp/>)からお申し込みいただけます。(郵送・ファクシミリでの申込をご希望の方は、申込用紙のダウンロードが可能です。)

申込締切日 「ホットイシュー」「恒常イシュー」ともに **2013年8月5日(月)必着**

申 込 先 〒135-8473 東京都江東区深川 2-6-11
富岡橋ビル 4F (公財)未来工学研究所気付
研究・技術計画学会事務局
TEL/FAX: 03-5620-0577
E-mail: office@jssprm.jp